鈴木鎮一著「新しい言葉『才能』の意義」Suzuki method, №.195 才能教育研究会 2016 年刊を読む

新しい言葉「才能」の意義

１．才能という文字の意義を、私は非常に広範囲に考えまして
「生後その環境の中において（刺激やそのくり返しによって）育つところの総ての能力を、全部、才能とみなす」
ということが、才能についての私の見解であります。

２．それでありますから、才能という意味も、今まで一般に使用されていたものよりも、極めて広くなりましたし、またその有する意義も生れつきのものというような観念はもたず、**そこに育ってくる総てのもの**を指すのであります。才能をこのように考えた私にとっては、**人の心も才能**でありますし、**その心によって示されるところの性格なるものも、当然、才能**であります。

３．**才能であるからには総てこれを育ててゆくことの出来る**もので、**人の心も、環境によって巧みに育てゆくならば、美しく立派なものに育てることが出来る**わけであります。

４．**思考力もやはり才能の一種**であり、**従って老人の持つ思想も才能**でありましょう。**科学、芸術その他あらゆる、人の示す能力の全般に亘（わた）ってこれを皆才能とみる**のが、私の才能についての意義であります。

５．また才能は優れたもののみを指すのではなく、下手に訓練してどうにもならぬところへ到達した、いわゆる下手の横好きという人々でも、それはやはり才能を育てたわけで、**真似が出来ぬくらい下手に訓練し抜いた人は、非凡な下手さへその才能が育てられた**、とみるのであります。

６．こういうように才能については、その見方を新しい角度からみているのであることを御理解ねがいたいのであります。

７．従って、**才能においては、美も醜もありませんし、善も悪もない**のであります。**ただ毎日訓練せられるままに、どこへでも伸び育ってゆく本質をもつ**ものであるということが言えます。

８．それでありますから恐ろしいのは、環境であります。**毎日くり返すことのままに人の総てのものが、どんな方向へでも育ち進みつつある**のでありますから、**毎日の生活の中にくり返されることの優劣に従って、その人の一生は優劣が運命づけられる**のであります。丁度、一日陽の照るところに植えられたものと、陽の照らぬところに植えられたものは、その与えられる毎日のくり返しの環境は、やがて大きな育成上の差となって現れて来ます。

９．親が子供の教育すべきを知って、早くから育ててゆくように気がついたことは、丁度陽の照るところへ植えかえられた植物と同じでありまして、その子供は幸福であり、また必ず陽かげに植えてあるものとは比較にならぬ生育ぶりを、その心にもその能力にも示すものであります。

10．環境のままに育つという心、能力、智、即ち才能の有様を思うとき
　ああ大自然なるかな天地の理という感嘆の言葉が、つい出てくるではありませんか。

P6 ～ 7

＜コメント＞

　バイオリンのスズキメソッドを開発、御指導なさった鈴木鎮一先生の新しい「才能」の意義のお話は極めて示唆に富み、興味深い。大いに参考にさせて頂きたい。

― 2016 年 6 月 22 日（水）　林　明夫記―